

2020年2月20日 東京ホームタウン大学2020

地域に開かれた福祉施設に向けて

津田塾大学 総合政策学部

工藤桂菜・瀧井日奈子・竹内奏絵

介護施設の理想の状態

①少子高齢化

- ➔ 2030年の東京都では、約4人に1人が65歳以上の高齢者に

②社会保障制度の問題

- ➔ 歳出のうち、社会保障費は33.7%（2018年）
- ➔ 高齢者医療・介護費用の負担を公費に依存し、国債を発行

公的な支援に頼るのみでは必要なケアを届けることが困難
地域での支援が必要

地域包括ケアの一翼を担える地域密着型の施設づくりが必要

介護施設の理想の状態 ①ニーズを捉える

(ニーズの例)

施設利用者

- ➔ 入居しながらも地域との関わりを持ち続けたい
- ➔ 多くの支え手による十分なケアを受けたい

地域住民

- ➔ どのようなサービスを行っている施設なのか知りたい
- ➔ いざという時のために施設との繋がりを持っておきたい

介護施設の理想の状態 ②地域に開かれた存在に

交流イベントやシンポジウムの開催を通して
積極的に地域と関わる姿勢を示す

- ▶ ボランティアが増えることによって、職員の助けになる
- ▶ 虐待や不適切なケアの予防
- ▶ 利用者の生活の幅が広がる
- ▶ 知識・経験を活かし活躍できる機会が生まれる

地域住民からの信頼を獲得
住民による貢献活動の拠点になる

練馬キングス・ガーデンの概要

施設概要

特別養護老人ホーム
(入居者は約50名)

サービス
受益者

近隣地域のお年寄りとそのご家族
(利用者・相談者は約600名)

主な
サービス

特養・ショートステイ
デイサービス・ホームヘルプ

プロボノの支援内容



プロボノワーカーと施設職員の方

支援実施年

2016年

依頼内容

1 Day スペース活用ワークショップ
中庭の有効活用

依頼目的

中庭を練馬キングス・ガーデンの貴重な資産として
地域住民の方が集まる憩いの場にしたい

プロボノ支援内容

成果物

6つのイベントの提案

メインの企画案：オープンカフェ

- 概要
オープンカフェ
- 詳細
 - 定期的なイベント
 - 近所の子連れママの憩いの場に、公園が近くにあるので、公園で体を動かして疲れたら、ちょっとコーヒーでも飲みながら休憩をする。あるいは、セルフサービスのお茶を置いておく。
 - テーブルと椅子を用意して、持ってきたお弁当を食べる。
 - 毎日ではなく、毎週〇曜日。ボランティアさんはコーヒーだけ用意しておく。100円程度で販売してもよい。職員負担軽減のためにもボランティアに参加してもらおう。
 - 子供は目の行き届く中庭を歩き回っても、広い公園よりは安心。
 - 樹木の成長を見たり、収穫して楽しめる。
 - のぼりやブラックボードで入りやすい雰囲気作り。
 - 子どもがいる母親としては、お年寄りとの交流の場が貴重。
 - 食育の観点でも、野菜や果物がなっている様子を見られて良い。
- 検討事項
 - 暑い時期、寒い時期は、庭と屋内の両方が使えるとよい。
 - 衛生的に保健所は許可するか？ 無料ならOKか？ 飲み物（市販のもの）ならOKか？ 常設の場合は？ お祭りの模擬店は許可が必要。東中野はカップのコーヒーの自販機はある。最終的に確認は必要。

企画案コンセプト

メインの企画案：オープンカフェ

- 日常的に人が集まる
- 地域住民が交流できる場
- ふらっと立ち寄れる

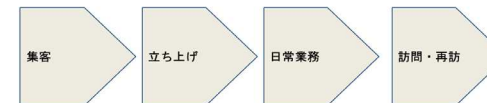
オプションのイベント企画案

- オープンカフェを知るきっかけ、初めて訪れるきっかけ
- 中庭の自然を生かす
- 子供が安全に楽しめる
- イベントごとの相乗効果を狙う

➡メインとオプションのイベントがリンク！

オープンカフェ企画検討

当企画を実現するにあたって検討する必要がある項目を、以下の段階で検討した。



オプションのイベント企画案（一覧）

- 企画案1：果物の収穫体験＋ジャム作り
- 企画案2：朝市
- 企画案3：テラリウム多肉ワークショップ
- 企画案4：子ども写生大会
- 企画案5：自然観察（虫探し、植物観賞 など）
- 企画案6：練馬工業高校とのコラボ企画

インタビューの結果

2019.07.18

【支援のその後】
プロボノワーカーから提案された中庭活用の具体案のうち、オープンカフェは実現していないものの、



私たちの考えるプロボノ支援による2つの成果とは

まず始めに、介護業界のステークホルダーを社会保険制度の仕組みを通して理解する。図1にあるように、ステークホルダーは主に加入者（介護サービス需要者）、市町村・自治体、サービス事業所に分類できる。

ゼミレポート

「高齢化社会で今後、施設が担う役割は、地域包括ケアに変化しつつある」と施設長は話します。プロボノの支援は、その変化を職員に印象付ける出来事だったそうです。中庭活用は地域包括ケア推進への第一歩となっています。

[2019年7月、津田塾大学 森川ゼミ・伊藤(由)ゼミの協力により取材]

東京ホームタウンプロジェクトHP

支援の成果①直接的な成果物 中庭利用の多様化

整備して心地の良い空間に



支援の成果①中庭のカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----



子どもたちのお散歩



ゆず湯

びわの収穫



芋ほり



支援の成果②表面的な数値や結果では 把握できない間接的な成果物

自ら、地域と繋がるために動く組織へ

- ➔ 地域貢献委員会の常設
(イベントの企画・計画)
- ➔ 地域住民向けシンポジウム (年1回)
- ➔ 広報活動開始
(Facebook、月刊新聞、ブログ)

サポートネットワーク第4回シンポジウム
認知症を
地域で生きる
～寄り添い つながり 共に歩む～

お気軽に
ご来場ください
もれなくお土産
付いてきます★

2019年11月10日(日) 11:00～16:30
練馬の丘キングス・ガーデン

1F マシン室
★VR体験
1回目 12:30～ 2回目 15:00～
ビルの屋上から突き落とされる？
ここはどこ？ 部屋に見知らぬ人が
いる！消えた！認知症の症状でもあ
る視空間失認、見当識障害、幻視
をVRによって体験します。
(2回目内容は同じです。)
※定員 50名/回 ※13才以下不可
※当日整理券を配布します。

★展示・相談コーナー 詳細は裏面へ
各出演団体が、カフェ・ハンドマッサージ・似顔絵
・相談など、催しをご用意してお待ちしております！
美味しいコーヒー、スイーツもあります。

★講演 詳細は裏面へ
1回目 11:00～ 志摩 浩二氏 (ニコアホームきみさちまち 理事長)
2回目 11:45～ 山田 忍氏 (認知症ケア専門家 130002分館 著者)
3回目 14:00～ 高橋 恵美子氏 (青年認知症交流会かきな旅人たちの会 理事兼事務局長
田中 妙美子氏 (青年認知症わらひまの会 MARINE 代表)

★イベント内容は事前の予告なしに変更になる場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。
www.kg-tokyo.or.jp

KVG 社会福祉法人キングス・ガーデン東京

シンポジウムポスター

プロボノ支援の特徴

＜練馬キングス・ガーデンの2つの成果＞

①中庭の活用

②職員の意識改革

(自ら地域と繋がるために動く施設へ)

- ▶ “待ちの姿勢”からの脱却の必要性に気づく
- ▶ SNSを使った広報を始める

他業界の人とのコミュニケーションの中で、
新たな視点を得て1つの業界では不足しがちな知識をカバー

プロボノ成果の測定方法のポイント

補助金での支援と比較すると...

- ➔ 成果物は多様であり、定量的データでは測りきれない
- ➔ 支援を受ける団体のニーズと合致するか
- ➔ プロボノ側は各団体の支援内容に適した人材であるか
- ➔ 支援の頻度は適切か

**支援する前の段階で、支援先のニーズを
どれだけ正確に把握できるか**

プロボノ支援のこれから

現在の東京ホームタウンプロジェクトでは、各支援先が抱える課題の解決方法を**個別に**考えていく

様々な地域団体・NPOへの支援を通して蓄積された
プロボノの経験・知識

→ プロボノ間でノウハウを共有

過去の支援先で得た知識の中で、他の支援に応用可能なノウハウを共有する機会を設ける

→ 地域団体間でノウハウを共有

過去にプロボノ支援を受けた地域団体が課題解決方法などの情報交換をできる機会を設ける